

水 稻 の 作 況 調 査 に つ い て

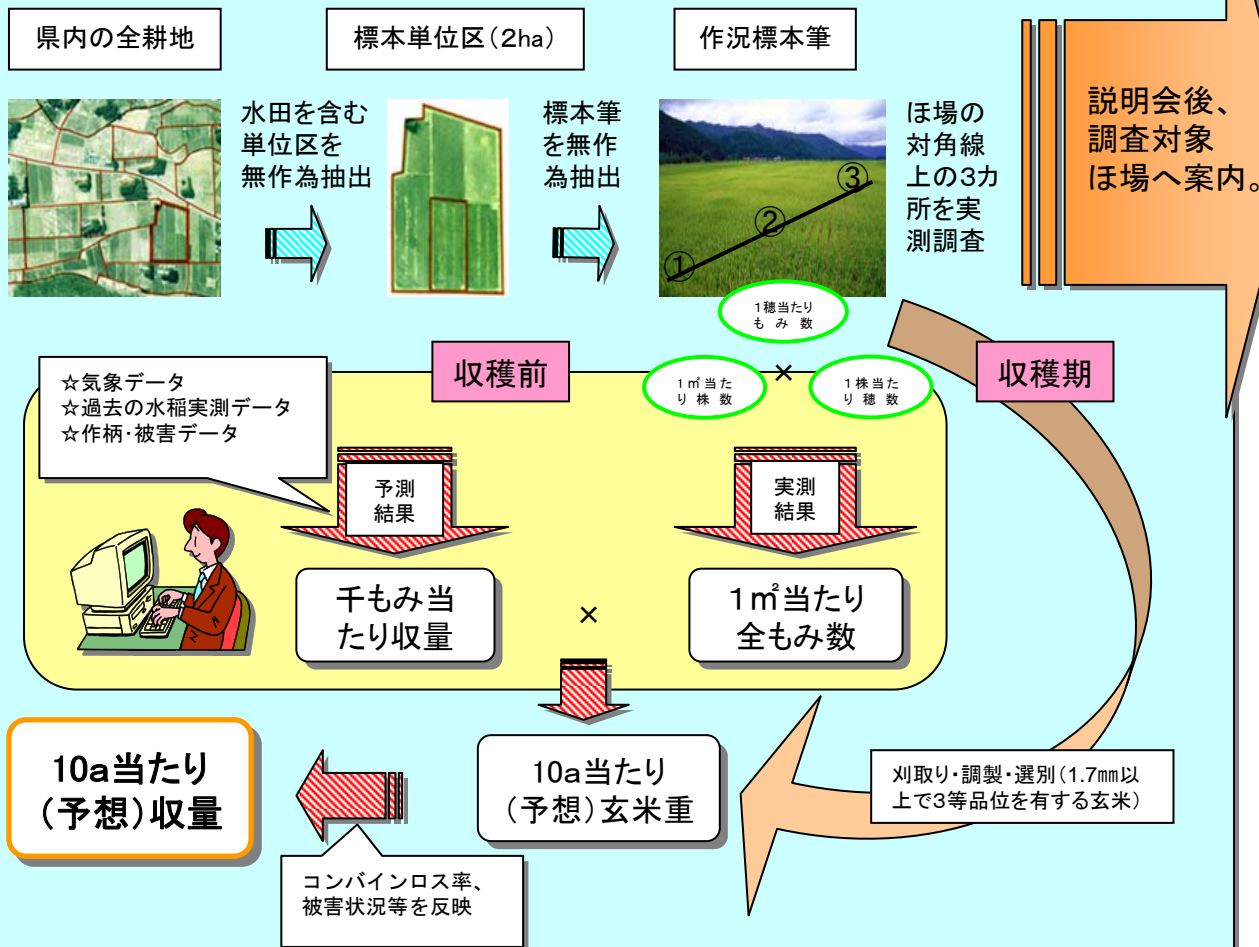
関係者立ち会いの下、現場での実測・調査過程の公開、調査手法の説明により、より一層の共通認識を形成

○公開の時期：8月以降適宜 ○参集者：都道府県、市町村、JA、地域水田協議会等

調査内容についての説明会

パンフレット等の資料を活用し、調査手法について説明するとともに、地帯別標本筆数・分布図等を提供し、意見交換

<調査手法の流れ>



ほ場における実測調査の公開

調査箇所を選定方法、各調査期における草丈、茎数、穂数、もみ数等の実測手法の説明・公開。

公開時期が収穫期に至っていない地域については、関係機関の要望に応じて、後日改めて収穫・調製作業及び10a当たり収量の算出までに係る説明・公開。

調査結果概要の説明

実測調査結果概要を説明するとともに、関係機関との情報交換を行い、共通認識の形成を図る。



調査結果と農家の作柄実感

標本調査結果

鳥取県内の作況標本筆の調査結果の分布を見ると、平均値が位置する区間を中心として左右に分布しています。つまり、県内で収量が高い筆も低い筆も抽出され調査を行っています。

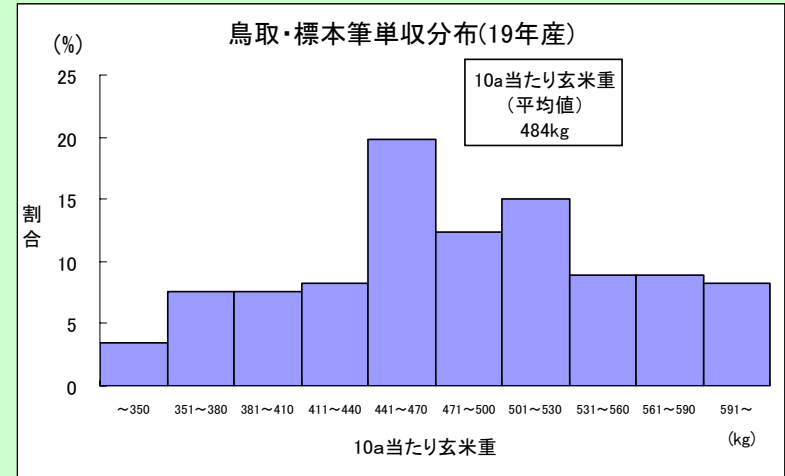
このため、作況標本筆の実測結果から求める10a当たり収量や作況指数は、個別の地域や個々の農家から見ると高く感じたり、低く感じたりする場合があります。

なお、作柄表示地帯を栽培環境等が似通った地域などで区分し設定している階層(作況階層)ごとに、筆ごとの調査結果を単純平均し、その階層別の平均値を各階層別の作付面積により加重平均して、作柄表示地帯別及び県別の平均値を算出しています。

選別ふるい目幅

収穫量調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握するため、全国統一的に三等以上の品位に相当する1.70mmのふるい目幅を使用していますが、農家等では、良質米を求める消費者ニーズや産地間競争などから大きいふるい目幅を使用しており、大きなふるい目幅を用いている農家から見ると低く感じる場合があります。(19年産の場合、2.0mm選別収量は1.7mmの約8割の収量)

このため、農家等が使用するふるい目幅でどの位の収量になるか分かるようにふるい目幅別の重量分布を公表しています。



区分	10a当たり収量 (1.70mm選別)	選別ふるい目幅別10a当たり収量					
		2.00mm選別	1.90mm選別	1.85mm選別	1.80mm選別	1.75mm選別	
鳥取	収量(kg)	475	386	449	461	467	472
	割合(%)	100.0	81.2	94.5	97.0	98.4	99.3

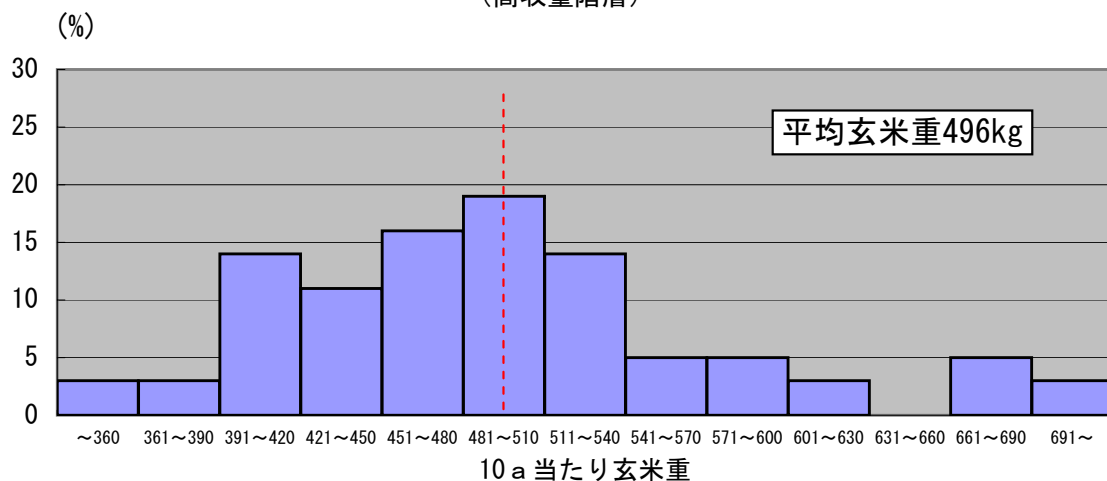
なお、農家等が選別したふるい下米について、一部は業者等に再選別されて、飯米、酒米などの主食用に仕向けられており、飯用では1.70~1.75mmのふるい目が多く利用されています。

区分	計	2.00mm以上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
鳥取	100.0	-	0.6	98.1	1.3	-	-
全国	100.0	2.3	26.2	38.8	27.9	4.2	0.6
北海道	100.0	23.9	63.7	12.0	0.4	-	-
東北	100.0	0.6	75.3	23.0	1.1	0.0	0.0
北陸	100.0	1.5	27.9	64.3	6.0	0.3	-
関東・東山	100.0	0.3	3.7	38.6	43.2	12.5	1.7
東海	100.0	0.2	11.7	39.3	45.5	2.2	1.1
近畿	100.0	3.1	7.0	37.0	43.2	9.4	0.3
中国	100.0	0.8	6.0	71.8	20.7	0.7	-
四国	100.0	-	1.8	12.4	70.5	14.2	1.1
九州	100.0	0.1	4.7	42.7	48.6	2.8	1.1

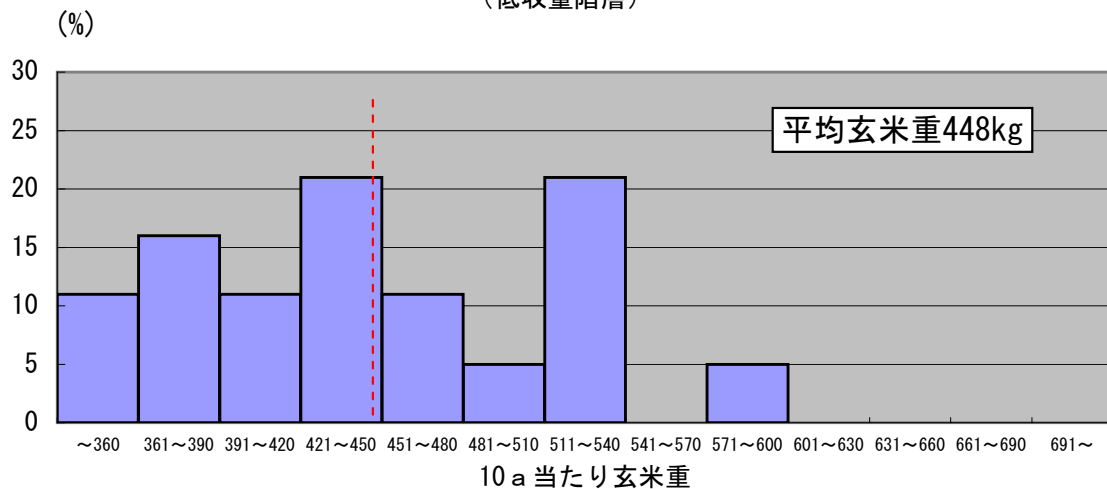
	用途・仕向先					
	飯米	酒米	米菓	味噌	転送	その他
業者数	41	50	42	29	15	22
割合	59%	71%	60%	41%	21%	31%

	1.65	1.70	1.75	1.80	1.85
計	4%	32%	32%	24%	8%

東部地帯標本分布割合（19年産）
（高収量階層）



東部地帯標本分布割合（19年産）
（低収量階層）



- 鳥取県では、県内を東部と西部の2つの作柄表示地帯に区分している。このうち、東部地帯は、鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町で構成されており、この東部地帯を更に高収量階層と低収量階層の2つに区分（作況階層）している。
- 東部地帯における作況階層別10a当たり玄米重を見ると、高収量階層の平均玄米重496kgに対し、低収量地帯では448kgと48kgの差があり階層ごとの性格に応じた結果が現れている。
- なお、統計単収は地域の平均的な収量を求めているものであることから、個々の農家から見た場合、平均値より低い収量の農家では統計単収が高く感じられることがある。
- また、標本は無作為に抽出されており、作況階層ごとの標本の分布を見ても、平均値に対して、収量が高い標本も低い標本も選定されている。